

十一月の仕事

この月には手紙をうけとり 手紙が来るて

たが、い。 ちがは返平まかくのわおつくう

何日か忘つてやるともろくは手紙に郵便番号

がかいと命かうたやふど何着かやとしらび

おめければおと思つてもこの水が又不うくう

かあり新にふ葉市にすかやる課とこの月か

去来で「この水はいい 鬼習うと思つた 来た君

るいを「返平をかくもの」 取つておくもの

すかすかも「とすじやる課を貝存うた

威心にも今年も「い」 唯一の「い」習得

心と思つていたが「と」と「こ」い「た」てり

る「と」り「実」は君る「い」の「年」が「ゆ」も「が」い「の」

肉にかひの橋は「り」

立冬をすぎた今年が「ゆ」万「い」は「寸」が「十」二月に

ち「て」し「る」が「た」め「ス」変

あ「か」す「い」が「ル」の「に」これ「は」こ「の」何「巻」物「を」し

お「カ」イ「ド」す「い」が「ル」の「刊」出「し」た「引」出「し」た「回

「ア」が「ら」る「れ」も「いつ」か「中」が「ゆ」を「や」り「た」け「が

ひ「お」つ「と」し「て」つ「身」ま「つ」て「い」る「か」も「七」れ「年」

一フブフ谷で寝る

ここに内閣府が引当が去る

私に立つたの

人手にたるとは存る

花引出し五七下也

らバト迄際々

い 不寛能

何と去るに

が乗る子に

今 朝の朝水

う 四味十五分迄

る へんげいの

が こんで

用が 今引

てり

余更言う

出系

出系